

## 世の光となる人

経済学部宣教師 李相勲

本日の聖句：『新約聖書』マタイ 5章14節

「あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。」

私たちは、それぞれに悩みを抱えて生きています。他人の目から見れば、たいしたことのないような悩みでも、本人にとっては人生を左右するほどに大きなものと感じられる場合もあります。悩み・苦悩は、人を孤独にするものでもあります。それらは他人と分かち合えないものだと感じられるからです。

1990年代後半において韓国で流行り、今でも歌い継がれている歌に、「人は花より美しい」という題の歌があります。歌手のアン・チファンさんがある詩人の詩に少し手を加え、曲をつけて歌ったものです。その歌詞を紹介したいと思います。もとは詩ということもあり、詩的センスのない私が上手く訳しているかどうか心許ないですが、歌詞が伝えようとしていることを雰囲気をつかんでいただければと思います。

川の水のような歌を抱いて生きる人は わかるようになるさ ウーム わかるようになるさ  
ずっと暗かった山々が夕方になると なぜ川に染みて 夢見 夜が深いほど 黙々と  
互いをさすり合い 抱きしめたまま ゆっくりと親しんでいくのかを ウーム

激しい孤独に 立往生してみた人は わかるようになるさ ウーム わかるようになるさ  
その悲しみに屈せず 引き下がらなければ いつのまにか きらめく花芽を閉じ  
ガサガサと葉っぱを育てる愛こそ 緑濃い森となり 山となり  
やまびことして残るということを

誰が何と言おうとも 人は花より美しい

このすべての孤独に打ち勝ったその人こそ 誰が何と言おうとも あなたは花より美しい  
歌の温もりを抱いて生きる君こそ あなたこそ 私たちこそ  
わたしたちは真の愛

この歌は私たちに、孤独や苦悩の中にあって懸命に生きぬこうとする人がいかに美しい存在であるのかということ。「人は花より美しい」というフレーズとともに伝えてくれています。もちろん、その「美しさ」とは容姿などの外観的なものに関わるものではなく、「生き方」に関わるものです。そして、その「美しさ」は山のような存在となり、やまびことなって他の人たちを奮い立たせるものとなるとのメッセージが込められているように見えます。

先日、ある新聞の読者投稿欄を読んでいましたら、現在は競技生活から離れ、白血病の

治療に専念している競泳選手の池江璃花子さんについての文章がありました。内容は、「今のありのままの自分を見てもらいたい」とし、ウィッグ（かつら）を外して抗がん剤の影響で髪が抜けた姿を公にした池江さんから勇気もらった、というものでした。この投稿文の筆者は、耳に障がいをもつ方でしたが、ありのままの自分でいようとする池江さんの生き方に感動し、自らもありのままの自分を受け入れ、自分らしく生きていく勇気もらったとのことでした。この投稿文の内容は、苦悩と立ち向かう人の生き方は他人と共有され得るのであり、山のような存在となり、やまびことなって他の人を奮い立たせるものとなりうるということをよく示してくれているのではないかと思います。

今日の聖書箇所には、イエス・キリストが弟子たちに語った言葉の一部が記されています。「あなたがたは世の光であれ」との言葉です。これまでキリスト者たちは、この言葉を受け、「世の光」となることに努めてきました。

では、今日において「世の光」となるとは何を意味するのでしょうか。いろいろとあるでしょうが、そのうちのひとつは、孤独や苦悩の中にあって懸命に生きぬく生き方を通して、周りの人を照らす希望の光となるということではないかと思います。アン・チファンさんの歌が示すように、また先の投稿文が示すように、その生き方を通して人間存在の美しさを示すことで希望の光となることではないかと思うのです。

皆さんもこれから先の人生の中で、多くの孤独や苦悩を経験されることでしょう。その中であって、「世の光」ともなる生き方をもった人と出会いつつ、そして、その「世の光」に励まされつつ、自らも「世の光」となる生き方を選び取っていく皆さんであっていただければと願います。